

サステナビリティへの取り組み

社会と響きあう 文化・社会貢献

サントリーグループの文化・社会貢献活動の原点は、創業者・鳥井信治郎の「利益三分主義」の精神にさかのぼります。時代を見つめた文化・社会貢献のあり方を追求し続ける姿勢は、世代を超えて受け継がれており、「芸術・文化・学術」「スポーツ」「社会福祉」の分野を中心に、「次世代育成」「被災地支援」「地域貢献」「チャレンジド・スポーツ支援」「社員ボランティアの推進」など多岐にわたる文化・社会貢献活動に取り組んでいます。すべての社会貢献活動で地域とのエンゲージメント活動を実施し、地域とのコミュニケーションを大切にしています。



芸術・文化・学術・スポーツ



社会福祉



次世代育成



地域貢献

SUNTORY

社会貢献活動方針

サントリーグループは創業以来、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現に寄与するため、さまざまな社会貢献活動に取り組んできました。グループ各社とともに、グローバルに社会的責任を果たすため、「サントリーグループ社会貢献活動方針」を策定しています。



芸術・文化・学術活動

豊かな生活文化の発展に寄与する芸術・文化振興に加え、人文・社会科学や生物有機化学研究の推進にも取り組んでいます。



スポーツ活動

人々の豊かな生活文化への貢献を目指し、スポーツ振興に力を入れています。



社会福祉

創業からの「利益三分主義」の精神に基づき、事業の利益を社会に還元する慈善活動・社会福祉に現在も取り組んでいます。



次世代育成

次代を担う人づくりも企業の使命であると考え、子どもたちの成長を支援する多様な活動を展開しています。



被災地支援

国内外の大規模な災害時に義捐金の寄付や飲料水の提供、グループ一体となった活動等を継続的に支援を行っています。



地域貢献

工場緑化を推進し、工場見学実施や従業員参加による美化活動など、地域に根ざした貢献活動を幅広く展開しています。



チャレンジド・スポーツ支援

創業以来のチャレンジ精神「やってみなはれ」のもと、「PASSION FOR CHALLENGE」を掲げ、チャレンジドスポーツ（障がい者スポーツ）のアスリートを応援する活動を行っています。



社員ボランティア活動支援

“Growing for Good”へ向け誠実に信頼される人間として成長しつづけるため、ボランティア活動をはじめとした社員の社会参加を積極的に支援しています。

社会と響きあう 文化・社会貢献

社会貢献活動方針

サントリーグループは、創業精神「利益三分主義」のもと、地域社会への貢献や文化、芸術、スポーツ振興、被災地支援活動、環境活動などに積極的に取り組み、社会・自然との共生を図ってきました。サントリーグループの社会貢献活動はさまざまな社会的課題の解決に貢献するとともに、サントリーグループが展開する事業の持続的な発展にも寄与すると考えています。グループ各社とともにサントリーらしい活動を推進していくことで、グローバルにコーポレートブランドの価値向上を図っていきます。

サントリーグループ社会貢献活動

サントリーグループは、創業者の「利益三分主義」の精神を受け継ぎ、社是にいう“生命の輝き”をめざして、人々が心豊かに暮らしを楽しむことのできる社会の実現に寄与するため、社会貢献に積極的に取り組んできました。

私たちは、企業理念に掲げる「人と自然と響きあう」のもと、お客様に最高品質の商品・サービスをお届けするとともに、生活文化の豊かな発展と持続可能な地球環境の実現をめざし、グローバルに社会的責任を果たしていきます。

1. 「文化・芸術振興」「スポーツ振興」「社会福祉」「自然環境保全」「ダイバーシティ」「被災地支援」の分野を中心に、次世代育成の見地と地域の実情をふまえた活動を、従業員とともに推進しています。
2. ステークホルダーとの対話を重視し、連携・協働に取り組んでいます。
3. 従業員の多様なボランティア活動を支援しています。

社会と響きあう 文化・社会貢献

芸術・文化・学術活動

サントリーグループは、豊かな生活文化の発展に寄与するため、サントリー美術館、サントリーホールを運営をはじめとして、多様な文化貢献活動に取り組んでいます。

また人文・社会科学の学術研究助成や、生物有機科学の研究活動の推進も行っています。こうした活動を通じて、次代を担う国際的人材の育成も目指しています。

芸術・文化・学術の振興活動

■公益財団法人 サントリー芸術財団

1961年開館のサントリー美術館と、創業70周年記念事業として1969年に設立された鳥井音楽財団（1978年にサントリー音楽財団に改称）。ほぼ半世紀にわたって芸術分野で積み重ねてきたこの2つの活動を、創業110周年記念事業として1つに束ねるとともに、21世紀にふさわしい新たなかたちに革新すべく、2009年に設立されたのが公益財団法人サントリー芸術財団です。

また、2012年4月よりサントリーホールを運営へと事業領域を拡大し、ユニークかつ多彩な事業を通じ、日本の音楽・美術のさらなる普及と発展への貢献を目指しています。

■サントリー美術館 —「美を結ぶ。美をひらく。」

サントリー美術館は「生活の中の美」を基本理念に1961年に開館し、日本美術を中心とした企画展と作品の収集活動を展開しています。2007年3月には六本木の東京ミッドタウンに移転。ミュージアムメッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」のもと、国宝1件、重要文化財15件をはじめとする約3,000件の収蔵品を核に多彩な企画展を開催し、日本人の“美への感性”を後世に継承していく活動を続けています。「都市の居間」をテーマに建築家・隈研吾氏によって設計された美術館は、2020年に大規模改修工事を経てリニューアル・オープン。ショップやカフェ、さまざまなプログラムを開催するホール、茶室などもととのっています。



サントリー美術館

2021年は開館60周年。新たな取り組みにも挑戦した意欲的な記念展を開催

サントリー美術館は2021年、開館60周年を記念し4つの展覧会を開催しました。

アメリカ中西部のミネアポリス美術館より貴重な日本美術作品が里帰りした「ミネアポリス美術館 日本絵画の名品」展は、渡航の困難な時期に海外美術館のコレクションを一挙公開し、ご好評いただきました。続いて、感性を刺激する斬新な切り口で話題を集めたサントリー美術館コレクション展「ざわつく日本美術」、人気オンラインゲームとのコラボレーションでも刀剣ファンの反響を呼んだ、美術館初の刀剣展「刀剣 もののふの心」、人気漫画の原画を含む様々な作品を通して、聖徳太子の生涯や太子信仰をたどった、太子没後1400年記念展「聖徳太子 日出づる処の天子」を開催。一年を通して新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、多くのお客様を安全にお迎えすることができました。



サントリー美術館 開館60周年記念展 ポスター

コロナ禍の影響でご来館を控えるお客様にも継続的にお届けできるよう、オンラインプログラムもより充実させ、多くの方々に広く日本文化に親しんでいただける取り組みを続けています。



ラーニングプログラム：
 <動画>「ミネアポリス美術館
 日本絵画の名品」
 私たちの「推し絵師」おしえます！



<動画>サントリー美術館
 開館60周年記念展
 ざわつく日本美術

サントリーホール — 世界—美しい響きをめざして

サントリーホールは、1986年に東京初のコンサート専用ホールとして開館しました。偉大な指揮者である故カラヤン氏に「音の宝石箱」と評されたヴァンヤード形式の大ホールと、ブルーローズ（小ホール）の2つのホールで、国内外の一流アーティストによる演奏が繰り広げられ、例年、年間約550を超える公演に、約60万人のお客様が来場されています。コロナ禍においては徹底した感染拡大防止と安全安心な公演開催の両立、そして音楽を通じた心豊かな生活の提供と、音楽文化を牽引し社会に貢献することを使命に取り組みんでいます。2021年9月には、開館からの総数でご来場者2,000万人を達成しました。



サントリーホール



来場者2,000万人達成

ユニバーサルデザインや安全・安心への取り組みも「世界一」を目指して

サントリーホールでは、“世界一の美しい響き”を大切にしながら、高齢者の方、障がいをお持ちの方にも楽しんでいただけるように、ホワイエから1階大ホールに移動しやすいスロープや多目的化粧室の増設など、ユニバーサルデザインを推進しています。

また定期的な消防訓練や防犯訓練を行って、安全・安心への取り組みも「世界一」を目指しています。



1階ホワイエに増設されたスロープ



防犯の実地訓練を通じた、安全・安心への取り組み

DX推進の活動基盤となる新プラットフォーム「デジタルサントリーホール」の開設

世界中から、距離、時間、そして国境や言語を超えて、サントリーホールの施設やコンサートを、生活の中で身近に体感できることを目指し、オンラインイベント、バーチャル バックステージツアー、オンライン配信、オンラインショップ、動画ライブラリー、公演アーカイブ、おすすめコラムなどのデジタル情報を掲載した、「デジタルサントリーホール」を開設しました。



デジタルサントリーホール



2021年に開館35周年を迎え、オリジナリティあふれる記念主催事業を開催

開館当初よりサントリーホールでは音楽の情報発信基地としてオリジナル企画の主催公演を開催してきました。開館35周年を迎えた2021年は「夢を奏でる場所」というキーメッセージのもと、多彩な記念事業を展開しました。10周年を迎えた室内楽の祭典「チェンバーミュージック・ガーデン」、1987年から続く現代音楽の祭典「サマーフェスティバル」、そして「35周年記念 ガラ・コンサート」と、サントリーホール独自のオペラの表現形式「ホール・オペラ® ヴェルディ：ラ・トラヴィアータ（椿姫）」、また、1999年より日本に招聘しているウィーン・フィルハーモニー管弦楽団は、巨匠リッカルド・ムーティと共に来日。世界最高峰の素晴らしい演奏は、「音楽を通して人がつながる力」を再確認する新たな歴史の1ページとして刻まれました。



チェンバー
ミュージック・ガーデン2021



サントリーホール
サマーフェスティバル2021



35周年記念 ガラ・コンサート
～夢を奏でる場所～



「ホール・オペラ®ヴェルディ：ラ・トラヴィアータ」



ウィーン・フィルハーモニー ウィーク イン ジャパン2021
リッカルド・ムーティ指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

サントリーホール、サントリー美術館電力切り替えてCO₂削減

サントリーグループでは、2022年4月より、国内すべての自社生産研究拠点30箇所で購入する電力を100%再生可能エネルギー由来のものに切り替えています。同様に、文化施設であるサントリーホール、サントリー美術館でも購入電力を再生可能エネルギー由来の電力100%に切り替えました。

この取り組みにより、二つの施設で、これまでに比べて年間でCO₂を約800トン削減することができます。

「世界一美しい響き」も「都市の居間」も、人や社会と響きあうとともに、自然と響きあうことを大切にすることで実現できると考えています。



音楽事業 — 音楽振興のための先進的な取り組み

日本における洋楽の発展に寄与するため、優れた業績をあげた個人または団体を顕彰する「サントリー音楽賞」や、チャレンジ精神に満ちた公演に贈られる「佐治敬三賞」、日本人の新進作曲家の優れた作品を公開選考会で選ぶ「芥川也寸志サントリー作曲賞」の贈呈、「日本人作曲作品」の紹介やコンサート助成など幅広い活動を展開しています。また、2014年からは、世界的文化遺産である弦楽器名器の保全と、貸与活動を通じた音楽家の育成を目的として、財団所蔵楽器を中高生に無償貸与する「サントリー芸術財団名器特別賞」や若手演奏家向け貸与を新たにスタートしました。



「サントリー音楽賞」「佐治敬三賞」贈呈式

ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金

サントリー芸術財団はサントリーホールディングスとともに、音楽を通して被災地はもとより日本全国に活力を与えることを目的として、「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金」の活動を行っています。

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と協働で音楽活動の助成「音楽復興記念賞」や被災地での「こどもたちのためのコンサート」、ジュニアオーケストラの指導、献奏など、多くの活動を展開しています。



ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金
仙台ジュニアオーケストラとの音楽交流

■公益財団法人 サントリー文化財団

サントリー株式会社（現サントリーホールディングス株式会社）創業80周年を記念し、「社会と文化をめぐる国際的、学際的な探求の深化をめざして、広い分野に亘って有能な人材を発掘援助し、独創的で冒険的な研究を助成し、あわせて世界と日本との文化的な交流の飛躍的な発展に寄与する」との趣旨を掲げ、1979年に設立されました。

「学芸文化振興事業」として人文学、社会科学の領域における研究助成と調査研究、「サントリー学芸賞」の贈呈、海外出版助成など、「地域文化振興事業」として「サントリー地域文化賞」の贈呈と地域文化活動の支援などに取り組んでいます。

近年では若手研究者への支援にも積極的に取り組んでおり、これからの社会を担う人材のサポートに加えて、研究者と社会の橋渡しとしてアカデミズムとジャーナリズムの交流の場を設ける取り組みなども行っています。



「サントリー学芸賞」贈呈式



「サントリー地域文化賞」贈呈式



「若手研究者のための
チャレンジ研究助成」報告会

■公益財団法人 サントリー生命科学財団

サントリー生命科学財団は、国民の健康と栄養の向上を目的に、財団法人食品化学研究所として1946年に設立、1979年に財団法人サントリー生物有機化学研究所への名称変更を経て、生命科学と有機化学の融合領域である生物有機化学を基盤とする研究活動と学術振興を推進し、大学教授など、第一線で活躍する研究者を輩出してきました。

自らの研究所を「構造生物学」「有機化学」「分子生物学」の異分野融合拠点として位置付け、大学などの研究機関との共同研究を推進しながら「代謝」「生体膜」「シグナリング」をキーワードに「分子を中心に据えた生命現象のメカニズムの解明」を目指した研究活動に取り組んでいます。また、大学などの研究を支援する解析センター事業、若手研究者への研究助成、大学院生への奨学金、学術集会助成などの研究奨励助成事業、ならびに大学院連携講座の開設による研究・教育支援、博士客員研究員制度などの研究人材育成事業を行っています。



財団の歴史を紹介する展示



800MHz超伝導核磁気共鳴分析装置

ゴマの健康成分「セサミン」とともにゴマ種子に含まれる抗酸化物質「セサモリン」および「セサミノール」の生合成酵素遺伝子を世界で初めて発見、葉の縁の凸凹の形を制御する遺伝子の解明、花の色素とフラボノイド配糖体との相互作用による青色形成メカニズムの解明、穀物や野菜などの鉄分を吸収する新しいメカニズムの発見など、多くの研究成果が著名な学術論文に掲載されています。また、年度ごとに共同研究者や第一線の研究者を招いて報告会を開催しています。



研究所年度報告会
(大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール)

2020年度に募集を行った「サントリー SunRiSE 生命科学研究者支援プログラム」において、500人近くの応募の中から10人の若手研究者（SunRiSEフェロー）が採択され、2021年度4月より5年間の本プログラムが開始されました。2021年度には、フェロー間の交流を深めるための研究交流会、そして1年間の研究進捗状況を本プログラム運営委員の先生方参加のもと議論する研究討論会を開催しました。

■ともに「歌う」 歓びを広げる「サントリー 1万人の第九」

1983年、大阪城ホールでのオープニング記念イベントとしてスタートし、2021年で39回目を迎えた「サントリー 1万人の第九」。

サントリーグループは、師走の風物詩である本コンサートに第1回から協賛しています。

1万人がともに「歌う」 歓びやクラシック音楽の素晴らしさを感じられる機会として、レッスン会場を拡大し、幅広い年代・国籍の方々が参加するなど、世代を超え、地域・国境を越え、ますます広がりをもったイベントとなっています。

また東日本大震災復興支援活動の一環として、2011～2013年は東北会場を設け、大阪城ホールと中継を結んで開催し、2014年には岩手県・宮城県・福島県から150名を大阪城ホールへご招待しました。

また2017年からは、TV放送に加え、より多くの方にご覧頂くためにLIVE配信<LINE LIVE>を展開しています。

更に、2020年は新たな挑戦として、全国各地から動画投稿（オンライン含む）で本コンサートに参加していただく試みもスタートし、2021年には、海外11か国を含む1.5万件の合唱となりました。



サントリー 1万人の第九



のべ1万人による歌唱動画で実現した
第38回サントリー 1万人の第九の様子
(2020年)

社会と響きあう 文化・社会貢献

スポーツ活動

サントリーグループは、人々の豊かな生活文化への貢献を目指し、スポーツ振興に力を入れています。ラグビーチーム・バレーボールチームを組織し、所属リーグで日本一を目指すだけでなく、ホームタウンとの連携により地域に根ざした活動を展開しています。また女子ゴルフトーナメントや野球イベントの開催、パラスポーツ支援といった活動にも力を入れています。

ラグビーチーム「東京サントリーサンゴリアス」

「東京サントリーサンゴリアス」は、1980年に創部し、トップリーグ優勝5回、日本選手権優勝8回を誇る国内屈指のチームです。2022年に開幕した「JAPAN RUGBY LEAGUE ONE」に所属しています。

2020年9月に東京都港区、2021年4月に東京都府中市・調布市・三鷹市と、2021年11月に東京都と地域社会の発展に関する包括連携協力協定を結び、地域連携を強化。東京サントリーサンゴリアスのメンバーが指導する、ホストタウンにおける小学校向けのラグビー体験や、選手たちが人生を振り返り、生徒たちに「大切なこと」を伝える「夢へのトライ」と題した授業なども行っています。

また、東京サントリーサンゴリアスは社会貢献活動にも力を入れており、ラグビークリニックの他、チャリティオークションの実施、復興支援活動などにも積極的に参加しています。



ラグビーチーム「東京サントリーサンゴリアス」



ラグビークリニック



「夢へのトライ」と題した授業

バレーボールチーム「サントリーサンバーズ」

「サントリーサンバーズ」は、1973年に創部し、国内バレーボールリーグの最高峰であるV.LEAGUEのDIVISION 1に所属しており、2022年には2年連続9回目のリーグ優勝をした強豪チームです。

2018年9月に大阪市、2021年10月に箕面市と地域社会の発展に関する包括連携協力協定を結び、ホームタウンにおいてサンバーズの選手やスタッフが小中学生を中心とした幅広い世代に直接指導するバレーボールクリニックを行っています。

またサンバーズは、シニア世代向けのボールを使った運動指導、東日本大震災復興支援活動、ホームゲームに合わせた小中学生対象のバレーボールクリニックなど、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



バレーボール部「サントリーサンバーズ」



バレーボールクリニック



ホームタウンとの包括連携協定

宮里 藍 サントリーレディスオープン ゴルフトーナメント～全英女子への道～

サントリーが主催する日本女子プロゴルフ協会公認の女子ゴルフトーナメント。2022年は6月9日から神戸市の六甲国際ゴルフ倶楽部で開催。3日間トーナメントが主流の国内において、メジャー大会同様4日間で争われることから、真の実力が問われるトーナメントとも言われています。サントリー所属の宮里藍プロが大会アンバサダーとして、コースセティングや大会PR、来場者へのホスピタリティ活動に携わってくれています。また、インターナショナルオープントーナメントとして、未来を担う国内外のアマチュア選手に広く門戸を開き、次世代ゴルファーの育成を支援するとともに、チャリティ活動にも力を入れてきました。

さらに30回記念となった2021年からは～全英女子への道～として本大会の優勝と2位の選手はAIG女子オープン（全英女子）の出場権が与えられることになりました。



青木瀬令奈プロと大会アンバサダー宮里藍さん
(2021年大会優勝時)

サントリードリームマッチ

“夢や感動を伝えたい”との想いで、1995年から開催しているプロ野球を引退した名選手が2チームに分かれて試合をする野球イベント。これまでに延べ109万人を超える野球ファンの方々に、“夢の球宴”を楽しんでいただいています。第25回目を迎えた2021年は新型コロナウイルス感染拡大の影響からイベント初となる無観客にて開催しました。YoutubeやBS放送など複数のメディアを活用してLIVE配信を実施することで、イベント当日の山本浩二監督率いる「ザ・プレミアム・モルツ球団」と、田尾安志監督率いる「ドリーム・ヒーローズ」が繰り広げる熱い戦いをお客様に届けることができました。本イベントの売上の一部で、被災地復興支援として子どもたちへの野球教室開催などチャリティ活動を実施しています。



当日の様子 (2019年開催時)

サントリー チャレンジド・スポーツ プロジェクト

東日本大震災復興支援活動の一環として、2014年から「チャレンジド・スポーツ」支援を開始しました。

アスリートへの奨励金や競技用具寄贈などを行ってきたほか、東北の子どもたちを対象に、車いすバスケットボールをはじめとしたチャレンジド・スポーツの体験教室を開催。これまでに5,000名以上の方々に参加いただいています。

2015年からは公益財団法人 日本パラスポーツ協会および一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟のオフィシャルパートナーとして、復興支援に留まらず、サントリー社員でパラトライアスロン選手として活躍する谷真海選手をはじめとするアスリートの競技活動や大会のサポート、従業員によるボランティアなどに取り組み、さらに車いすバスケットボールのルール映像制作や、車いすバスケットボールのVR動画、アスリートの熱い想いをご紹介するWEB連載企画などを通じて、普及活動に取り組んでいます。昨年は大学生と共にパラスポーツの魅力伝えていくプロジェクトを立ち上げました。創業以来のチャレンジ精神「やってみなはれ」のもと、「PASSION FOR CHALLENGE」を掲げ、これからもアスリートとともに挑戦していきます。



社会と響きあう 文化・社会貢献

社会福祉

創業者・鳥井信治郎は「利益三分主義」を唱え、事業の利益を社会に還元することを信念としていました。特に、恵まれない境遇におかれた人たちへの慈善活動、社会福祉活動に積極的に取り組みました。サントリーグループは社会のニーズの変化を見据えながら、現在に至るまで社会貢献活動に継続して取り組んでいます。

社会福祉法人を通じた支援

■社会福祉法人 邦寿会

1921年（大正10年）、サントリーの創業者・鳥井信治郎が、社会奉仕への強い信念のもと生活困窮者救済のため、大阪市愛隣地区に無料診療院「今宮診療院」を開設したことから「邦寿会」は始まります。「邦寿会」という名前は、鳥井信治郎の妻・邦（クニ）の名と当時の社名「寿屋」の「寿」ととって命名されました。戦後の混乱期には、戦災者・海外引揚者・身寄りのない方のために宿泊施設などを提供し、その施設は、母子寮・養護老人ホーム・保育園へと受け継がれていきました。社会福祉法人として活動を続け、高殿苑（特別養護老人ホーム・1974年開設）、どうみょうじ高殿苑（総合福祉施設・2008年開設）、旭区西部地域包括支援センター（2011年4月に大阪市から受託）、つぼみ保育園（1975年開設）を運営しています。

また、時代のニーズに応え、訪問介護・通所介護・居宅介護支援などの在宅介護サービスにも力を入れています。2017年春、高殿苑、つぼみ保育園は、新築移転を経て、さらに特色のある快適な施設・豊かな感性を育む保育を目指しています。

2021年、大阪市内で最初の社会福祉活動を行った法人「邦寿会」は創立100周年を迎えました。



特別養護老人ホーム 高殿苑とつぼみ保育園



総合福祉施設 どうみょうじ高殿苑



高殿苑とつぼみ保育園の交流

フードバンク活動に協力し、児童養護施設等に当社の商品を寄贈

サントリーグループでは、フードバンク活動に取り組んでいる「NPO法人 セカンドハーベストジャパン」を通じて2010年から児童養護施設や福祉施設、コミュニティセンター、被災地などに対して、清涼飲料をはじめとした食品約94,000ケースを寄贈してきました。寄贈する商品は、あくまで市販品と同じ品質であることを条件とし、その品質保証やお客様対応なども市販品と同様に行っています。

2010年より首都圏で開始し、さらに2013年からは沖縄へも範囲を広げています。今後も、このフードバンク活動を継続し、必要に応じた数量を適宜お届けしていきます。



都内児童養護施設への寄贈

チャリティ・ボランティア活動の実施

■チャリティ活動

サントリーグループでは、チャリティイベントを通じた地域貢献活動を継続して行っています。また、全国の各事業所では、夏および歳末助けあい運動における募金活動などに、積極的に参加しています。

チャリティを通じた街づくりを支援

サントリーレディスオープンゴルフトーナメント

1990年に始まった「サントリーレディスオープンゴルフトーナメント」は、1995年の阪神・淡路大震災以降2010年まで、アマプロチャリティトーナメントのエンターフィ、チャリティコーナーの売上金などを、神戸市の震災復興、安心・安全なまちづくりにお役立ていただきました。

2011年からは東日本大震災で甚大な被害を受けた被災地への支援として、宮城県名取市・仙台市に消防用車両などを寄贈いたしました。2016年からは熊本地震被災地および東日本大震災への復興支援等を実施しています。2020年は開催中止となりましたが、兵庫県へ医療従事者支援のため寄付を実施いたしました。



宮城県名取市に寄贈した消防車両

サントリードリームマッチ

1995年から開催しているイベント「サントリードリームマッチ」では、ビールや飲料、グッズ、チャリティシートなどの売上金や出場選手サイン入りユニフォームのチャリティオークション収益の一部を活用し、野球復興支援活動としてプロ野球のOB選手による野球教室・キャッチボール教室の実施などを、2016年からは主に東日本大震災や熊本地震被災地を中心に行ってまいりました。



2020年11月に熊本県で開催した
野球教室の様子



チャリティ金を活用した被災地での
キャッチボール教室

社会と響きあう 文化・社会貢献

次世代育成

サントリーグループは、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため、音楽・美術・スポーツ・自然体験などを通じたさまざまな次世代育成活動に取り組んでいます。

次世代育成をさまざまな活動で支援

子どもたちが音楽・美術・スポーツ・環境教育などのさまざまな分野で、本物や一流に触れる機会を提供しています。少子化が進み、次世代育成の重要性が高まる中、これらの活動を強化し、子どもたちの豊かな個性・人格形成を支援しています。



サントリーホールとサントリー美術館の共同企画
「サントリーアートキッズクラブ いろいろドレドレ」

■サントリーホール — 次代の音楽家・聴衆を育成

サントリーホールでは、子どもたちに一流音楽家による生演奏に触れていただき感動を経験してほしい、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという考えのもと、さまざまな次世代育成プログラムを企画・運営しています。日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会「こども定期演奏会」の開催や、サントリーホールとサントリー美術館の共同企画「サントリーアートキッズクラブ いろいろドレドレ」を開催しています。またプロフェッショナルとして歩みはじめた若手音楽家を対象とした、オペラと室内楽の二部門からなるアカデミーを開講しています。そのほかにも、若手演奏家をウィーン・フィルハーモニー管弦楽団メンバーが直接指導する「ウィーン・フィル首席奏者によるマスタークラス」などのプログラムを実施しています。

「こども定期演奏会」の開催

子どもたちが定期的にコンサートホールに行く習慣を身につけ、生活の中にクラシック音楽を取り入れてほしいという願いをこめて、2002年から「こども定期演奏会」を開催しています。これは、日本初の子どものためのオーケストラ定期演奏会です。聴くだけでなく参加できることが特徴で、チラシの絵やシーズンのテーマ曲も子どもたちから募集・採用しています。また、オーディションにより選ばれた子ども奏者がピアニストと連弾したり、オーケストラの一員として演奏できるプログラムや、2021年からは子どもたちと音楽家を結ぶ企画として、子どもの書いた短いメロディーを使った新曲を、若手作曲家から募集する「新曲チャレンジ・プロジェクト」がスタートしました。



ピアニストの小山実稚恵さんと
連弾する子どもピアニスト



オーケストラ演奏の一員として
演奏する子ども奏者たち

サントリーホール 佐治敬三 ジュニアプログラムシート

若い世代へのクラシック音楽の継承を願ってやまなかった初代館長 佐治敬三の遺志を継いだプログラム。
小・中学生を対象に各回ペア3組を大ホールでの土日祝日の対象公演にご招待しています。



佐治敬三ジュニアプログラムシート



サントリーホール アカデミー

プロフェッショナルとして歩みはじめた若手音楽家を対象とした、オペラと室内楽の二部門からなるアカデミーを開講しています。
世界の第一線で活躍するアーティストに学ぶのみならず、定期的に行われる勉強会に参加して研鑽を積み、ブルーローズ（小ホール）公演で成果を発表します。



元世界的テノール歌手で
指揮者・声楽指導者の
ジュゼッペ・サッパティニが
エグゼクティブ・ファカルティ
を務めるオペラ・アカデミー



室内楽アカデミーの
ワークショップの様子。
館長の堤 剛(写真左から2人目)が
アカデミー・ディレクターを務める

■サントリー美術館 — 子どもたちが美術に親しむ機会を提供

いつでも子どものいる美術館を目標に、子どもたちが気軽に美に親しめるプログラムを提供し、楽しみながら美を愛する心を育む活動を幅広く展開しています。

「ラーニング・プログラム」の実施

サントリー美術館は、ミュージアムメッセージ「美を結ぶ。美をひらく。」のもと、次世代への教育普及活動に積極的に取り組んでいます。中学生以下は入館無料、さらに鑑賞支援ツール「わくわくわーくしーと」を無料で配布し、見どころをガイドするだけでなく、自由な発想で鑑賞を楽しむ心を育てます。展覧会ごとに、子どもから大人まで楽しめる様々な「ラーニングプログラム」を実施しており、講演会やワークショップに加えてオンラインでの動画配信も開始しました。また、「スクールプログラム」として、港区を中心とした小・中学校の児童・生徒の来館受け入れや出張授業にも積極的に取り組んでいます。



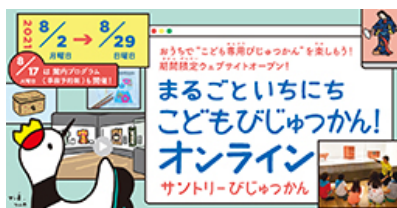
子ども向け鑑賞支援ツール
「わくわくわーくしーと」



エドゥケーターによる
「鑑賞ガイド」

「まるごといちにち こどもびじゅつかん!」の実施

休館日の1日を小中学生とその保護者対象に開放し、さまざまな教育普及プログラムを行う特別イベント「まるごといちにち こどもびじゅつかん!」を、2014年より年1回程度開催しています。ワークシートを使ってクイズやスケッチなどを楽しみながら展覧会を鑑賞できるほか、対話型鑑賞やワークショップ、館内ツアーなどの子ども専用プログラムを通して、充実した美術館体験を提供します。2020年からは動画などのオンラインプログラムも加え、より多くの子どもたちに柔軟な方法でお楽しみいただいています。



「まるごといちにち
こどもびじゅつかん!オンライン」バナー



館内プログラム

■スポーツを通じた子どもたちの育成を支援

サントリーグループは、スポーツを通じた子どもたちの健全な心と体の育成を支援しています。活動のひとつとして、サントリーのスポーツチーム「東京サントリーサンゴリアス」「サントリーサンパーズ」も競技の普及活動に取り組んでいます。

選手やスタッフが子どもたちを直接指導するクリニックを開催する他、東京サントリーサンゴリアスはラグビースクールへの指導やイベントの運営、サントリーサンパーズは地域のバレーチームや学生への指導やバレーボール大会の運営サポートなど、子どもたちがスポーツに触れるさまざまな機会を協力しています。



ラグビークリニックの様子



バレーボールクリニックの様子

■学校法人 雲雀丘学園を通じた支援

鳥井信治郎が1950年に学校法人 雲雀丘学園の初代理事長に就任して以降、同学園の幼稚園から高等学校までの一貫教育を支援しています。鳥井信治郎は「親孝行」の気持ちを大切にしており、「親孝行な人はどんなことでも立派にできます」が口癖でした。その創立精神は受け継がれ、学園では現在も、「親は子の成長を願い、子は親に感謝し尊敬するという、人としての自然なところが基本となって、家庭の輪につながり、社会のために尽くす気持ちが湧き出る」と考え、人間教育に取り組んでいます。2008年からは「環境講座」の開講を支援し、現在は次世代教育の一環として、小中学校への「花育（はないく）」や「水育」、校外学習を通じた環境教育支援をしています。2022年3月には、70周年記念事業が完了し、新文化館「道しるべ」が開設されたほか、学園の「探求活動」へのサポートとして、サントリーフラワーズやサントリー生命科学財団の研究分野の知見を活かしたカリキュラムを提供しています。



林間学舎での植樹のようす

■無人島でのキャンプ体験で挑戦する心を育成

サントリーグループは香川県小豆郡にある無人島の余島（よしま）で1950年からキャンプ場を運営している公益財団法人 神戸YMCAと、2007年から協働で「余島プロジェクト」を推進しています。これは無人島ならではの豊かな自然環境の体験・体感を通じて子どもたちの夢や挑戦する気持ちを育むプロジェクトで、夏に開催される「余島サマーキャンプ」等、年間を通じてさまざまなプログラムを企画・展開しています。毎年、約3,500名の子どもたちが余島を訪れます。

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年以降は人数やプログラムを制限して実施



余島サマーキャンプ



余島

■リアルな体験を通じて子どもたちの「職業観」を育成

サントリーグループでは、子どもたちが楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる、職業・社会体験型施設「キッズニア東京・甲子園」に、自動販売機の運営体験ができるパピリオン「ピバレッジサービスセンター」を出展しています。「ピバレッジサービスセンター」では、自動販売機の仕組みを知り、商品をお客様へお届けする上での知恵や工夫を学び、美味しさと安心・安全を支える人々の想いを感じることができます。普段何気なく目にして街の風景である自動販売機に実際に触れ、運営体験を通して、「職業観」を育成し、子どもたちの毎日の新たな気づきに繋がることを願っています。



自動販売機の中を知る



自動販売機に商品を届ける

社会と響きあう 文化・社会貢献

被災地支援



災害被災地への支援

サントリーグループでは、国内外の大規模な災害時に義捐金の寄付や、飲料水の提供など、被災者および被災地に支援を行っています。

■主な義捐金の拠出

年	件名	寄付金額	寄付相手先	ニュースリリース
2010	2010ニュージーランド南島大地震	325万円	Cristchurch earthquake appeal fund	
2010	宮崎県における口蹄疫被害	1,000万円	宮崎県、社会福祉法人宮崎県共同募金会	宮崎県における口蹄疫被害に対する義捐金について
2010	チリ大地震	500万円	チリ大使館	チリ大地震による被害に対する義捐金について
2010	ハイチ大地震	1,000万円	日本赤十字社	ハイチ大地震の被災地に対する義捐金について
2011	タイの洪水被害	約250万円	タイ王国政府	タイの洪水被害に対する支援について
2011	2011ニュージーランド南島大地震	620万円	ニュージーランド赤十字社	ニュージーランド地震に対する義捐金について
2011	豪州・クィーンズランド州における洪水被害	800万円	クィーンズランド州 The Premier's Disaster Relief Appeal	豪州・クィーンズランド州の洪水被害に対する義捐金について
2011~	東日本大震災	2011年 43億円 2012年 20億円 2013年 25億円 2014年 20億円 (累計108億円)	岩手県、宮城県、福島県、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンほか	東日本大震災に対する義捐金について
2014	広島における土砂災害	100万円	中国新聞社会事業団	
2015	ネパール大地震	300万円	ネパール地震被災救済基金	

年	件名	寄付金額	寄付相手先	ニュースリリース
2016	熊本地震	2016年 5月 1億円 2016年10月 3億円	熊本県	熊本県への義捐金リリース
2017	九州北部豪雨災害	福岡県 (500万円) 大分県 (500万円)	福岡県、大分県	九州北部豪雨災害被害に対する義捐金について
2017	米国大型ハリケーンによる被害に対する支援	約1億1千万円 (100万ドル)	アメリカ赤十字社	米国大型ハリケーンによる被害に対する支援について
2017	メキシコ地震による被害に対する支援	約2,200万円 (20万ドル)	メキシコ赤十字社	メキシコ地震による被害に対する支援について
2017	バージン諸島ハリケーン Maria	約5500万円 (50万ドル)	バージン諸島復興基金	
2018	平成30年7月豪雨 (西日本豪雨)	9億円 (広島、岡山、愛媛に 各3億円)	広島県は日本赤十字社広島県支部 岡山県、愛媛県は各県窓口	「平成30年7月豪雨」に対する義捐金について
2018	平成30年北海道胆振 東部地震	1億円	北海道	「平成30年北海道胆振(いぶり)東部地震」 に対する支援について
2018	台風21号の被害を受けた「御堂筋のイチョウ並木」に対する支援	約5,000万円	大阪市	台風21号の被害を受けた「御堂筋のイ チョウ並木」に対する支援
2019	台風15号に対する 支援	5,000万円	千葉県	「令和元年台風15号」に対する支援に ついて
2019	台風19号に対する 支援	5億5,000万円	岩手県、宮城県、福島県、茨城県、 栃木県、群馬県、埼玉県、神奈川県、 新潟県、長野県、静岡県(各5千万円)	「令和元年台風第19号」に対する支援 について
2020	オーストラリアの森林 火災による被害に対 する支援	約3,750万円 (50万オーストラリア ドル)	オーストラリア赤十字社 ニューサウスウェールズ州森林火災 消防団体 ニューサウスウェールズ州野生動物 保護団体	オーストラリアの森林火災による被害に 対する支援について
2020	熊本豪雨に対する支援	5,000万円	熊本県	熊本豪雨に対する支援について
2021	インドでの新型コロナ ウイルス感染症拡大 に対する支援	約6,540万円 (60万米ドル)	British Asian Trust Confederation of Indian Industry National Restaurant Association of India	インドでの新型コロナウイルス感染症 拡大に対する支援について
2021	米国の竜巻による被害 に対する支援	100万米ドル (約1億1,400万円)	Team Western Kentucky Tornado Relief Fund [※] アメリカ赤十字社 ※ケンタッキー州知事が竜巻被災者の ために立ち上げたファンド	米国の竜巻による被害に対する支援に ついて
2022	トンガ海底火山噴火に よる被害に対する支援	1千万円	トンガ王国	トンガ海底火山噴火による被害に対す る支援について
2022	ウクライナにおける人 道支援活動への寄付	総額約7,000万円	ウクライナ 国際連合世界食糧計画WFP協会 (国連WFP協会)	ウクライナにおける人道支援活動への 寄付について

災害時に飲料を無料提供

サントリーフーズ(株)では「緊急時飲料提供ベンダー(自動販売機)」を開発し、設置を進めています。普段は通常の自動販売機同様に飲料を販売し、災害発生などの緊急時には無料で飲料を提供。電源が落ちた場合でも、簡単に飲料を取り出せます。2011年3月の東日本大震災時にも、多くの方々に活用いただきました。行政施設や病院などを中心に設置を進めています。このタイプの自動販売機を、今後も積極的に投入していきます。



緊急時飲料提供ベンダー

被災地支援

サントリー東北サンさんプロジェクト

東日本大震災復興支援活動

サントリーグループは、東日本大震災からの復興に向けて、継続的な支援を展開しています。震災直後の緊急支援として100万本のミネラルウォーターと被災3県に対して3億円の義捐金を謹呈。さらに2011年に40億円、2012年に20億円、2013年に25億円、2014年に20億円の追加拠出を決め、合計108億円の規模で復興支援に取り組んでいます。

太陽のように暖かな光が被災地にさんさんとふりそそぐようにとの思いを込めて、「サントリー東北サンさんプロジェクト」を立ち上げ、「漁業」「子ども」「チャレンジド・スポーツ」「文化・芸術・スポーツ」の分野を中心に、支援活動を継続しています。

「漁業」の早期復旧のため、漁船や漁具、定置網などの取得を支援するとともに、「子どもたち」の健やかな成長を応援するため、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとともに水産高校生などへの奨学金をはじめ、安心して学び遊べる場所づくり（学童保育施設など）や子ども支援NPOへの助成などを行っています。また、笑顔と元気をお届けするために、「文化・芸術・スポーツ」を通じたさまざまな活動も展開しています。

そして、2014年からは夢と希望をお届けしたいとの思いから、岩手県・宮城県・福島県を対象に、「チャレンジド・スポーツ（障がい者スポーツ）」を応援しています。アスリート個人や団体の活動を資金面から支援する「チャレンジド・アスリート奨励金」、子どもたちを中心に競技やアスリートにふれあう機会を提供する「チャレンジド・スポーツ体験教室」、普及・強化や育成を支援する「チャレンジド・スポーツ育成サポート」を中心に、6年間にわたって、10億円の規模で展開していきます。

震災から10年が経過した2021年、東北の“新たな一歩”をサポートしたいという思いから、岩手県・宮城県・福島県で地域創生や地域活性化に取り組む皆さんを奨励金で応援する「みらいチャレンジプログラム」をスタートしました。第1期となる2021年には、3県合計40件の活動を採択し、今後2023年までの3期にわたって本プログラムを展開する予定です。

■支援実績

漁業の復興支援

各県に漁業復興のための寄付金贈呈

県を通じて漁業の早期復興を支援するため、宮城県に30億円、岩手県に25億円の寄付金を贈呈



SUNTORY
東北サンさん
プロジェクト
since 2011

漁船取得支援

漁業者の負担を軽減するため、宮城県・岩手県を通じて、漁船の取得費用の一部を負担し、遠洋マグロ用・イカ釣り用などの大型漁船から小型漁船まで約1万隻の復旧を支援

漁船取得支援数

約 **10,000** 隻



漁具・漁業関連施設復旧支援

宮城県・岩手県への漁業復興のための寄付金は、定置網・養殖施設などの復旧にも活用

漁具支援数

約 **1,100** 件

定置網支援数

約 **400** 件



未来を担う子どもたちの支援

水産高校奨学金

水産高校7校の被災した生徒を対象に2012年から5年間、返還義務のない奨学金を支給

奨学金受給生数(のべ人数)

約 **3,000** 名



福島の子ども学び遊べる場所づくり支援

福島の子どもたちが安心して学び遊べるように、学童保育施設建設を行い、サントリーグループ各社によるワークショップ開催や指導員研修、園外保育などの支援を展開

学童保育施設建設数

5 棟

園外保育など屋外活動参加者数

約 **8,800** 名



福島子ども支援NPO助成

避難生活が長期化している福島の子どもたちをきめ細かく支援しているNPO団体への助成を3年間実施

助成団体数

57 団体



「石巻市子どもセンター〈らいつ〉」・「山田町ふれあいセンター〈はぴね〉」建設
子どもたちが企画・デザインした施設「石巻市子どもセンター〈らいつ〉」（宮城県）・「山田町ふれあいセンター〈はぴね〉」（岩手県）の建設費全額を支援

石巻市子どもセンター〈らいつ〉年間利用者数

約**30,000**名



山田町ふれあいセンター〈はぴね〉年間利用者数

約**60,000**名

TOMODACHIイニシアチブとの音楽を通じた協働プログラム

米国大使館・米日カウンシル-ジャパン主導のTOMODACHIイニシアチブと協働し、「TOMODACHIサントリー音楽奨学金」では米国の音楽大学に入学する被災地の学生を支援。「TOMODACHIサントリー福島未来ミュージックプログラム」では、福島県ふたば未来学園高校の吹奏楽部生を対象に、米国におけるニューヨーク・フィルハーモニー管弦楽団によるワークショップで学ぶ機会を提供

寄付額

約**100**万ドル



チャレンジド・スポーツ支援

チャレンジド・スポーツ体験教室

岩手県・宮城県・福島県の子どもたちが、東北出身のチャレンジド・アスリートと共に様々なチャレンジド・スポーツを体験する教室を開催

参加者数

約**1,000**名



アスリート・ビジット

被災地の小学校・中学校での車いすバスケットボール出張授業、特別支援学校でのポッチャ教室を実施

参加者数

約**4,646**名



チャレンジド・アスリート奨励金

個人・団体への助成を通じ、チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を支援

個人部門

のべ**294**名

団体部門

のべ**129**団体

2020年1月時点



チャレンジド・スポーツ育成サポート

チャレンジド・スポーツの普及および育成のため、公共施設の改修や競技用車いすなどの競技用具を寄贈

各県でのチャレンジド・スポーツ指導者育成のための車いすスポーツ導入教室を開催

競技用車いす

35台

STT用卓球台

5台

施設改修

3カ所



車いすスポーツ導入教室

13回開催

文化・スポーツを通じた支援

ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とともに、音楽活動への助成や被災地でのコンサートを展開

「子どもたちのためのコンサート」来場者数

約**14,000**名



ウィーン・フィル&サントリー音楽復興祈念賞受賞活動

128団体



サントリー & 日本工芸会「おもしろびじゅつ教室 in 東北」

重要無形文化財保持者（人間国宝）をはじめとした伝統工芸作家による出張授業を実施

「おもしろびじゅつ教室」参加者数

約**1,200**名



サントリー美術館 出張展覧会

仙台市と郡山市でサントリー美術館の所蔵品による日本美術の展覧会を開催

来場者数

約**14,000**名



みちのくウインド・オーケストラ

被災地の中学校・高校の吹奏楽部生が練習を重ね、最後にはサントリーホールで公演するプロジェクトを実施

参加者数

約**350**名



サントリー & 仙台フィル みんなのまちのコンサート

仙台を本拠に置く仙台フィルハーモニー管弦楽団と協同し、2016年より東北の被災地を回るコンサートを実施

参加者数

約**4,000**名



文化・スポーツイベントに被災地の方を招待

「サントリー 1万人の第九」などの文化イベントや「サントリードリームマッチ」・ラグビー国際試合などにご招待

文化イベント招待者数

約**9,400**名

スポーツイベント招待者数

約**21,500**名



スポーツ教室開催

サントリースポーツチームによるバレーボール教室やラグビー教室、野球教室を被災地で毎年開催

スポーツ教室参加者

約**6,200**名



みらいチャレンジプログラム

岩手県・宮城県・福島県内で地方創生や地元活性化を目指し、新しい活動を実施しようとする団体または個人をサポート

2021年7月～2024年6月の3年間で

1億円 規模の奨励金を支給予定



被災地支援

サントリー水の国くまもと応援プロジェクト

熊本地震復興支援活動

サントリーホールディングス(株)は、平成28年(2016年)熊本地震の復興支援のため、「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」としてサントリーグループ一体となった復興支援活動の取り組みを開始しています。

4月の熊本地震発生直後にミネラルウォーター「サントリー天然水」約21万本を供出したほか、5月には義捐金1億円を拠出するなど、熊本県の復興・再生に向けた支援活動を実施しています。

その後、2016年10月には3億円の追加支出を決定。「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」を立ち上げ、サントリー九州熊本工場を熊本県内に置く企業として同県の復興に貢献したいとの思いから、「熊本地域における地下水の持続可能性に貢献する活動」「文化・芸術・スポーツを通じた心と体の支援活動」を中心に継続して実施しています。

なお、2020年7月に発生した熊本豪雨に対しても、復興支援活動を実施しています。



「熊本地域における地下水の持続可能性に貢献する活動」

サントリー熊本地下水みらいプロジェクト

「サントリー熊本地下水みらいプロジェクト」



冬水田んぼの復旧



復旧工事



田植えイベント



念願の収穫

「文化・芸術・スポーツを通じた心と体の支援活動」

スポーツ教室開催

サントリースポーツチームによるバレーボール教室やラグビー教室、野球教室を開催

参加者数

約**2,200**名



サントリーサンゴリアスによる
ラグビー教室



サンゴリアス選手との
2019年ラグビー W杯観戦企画
『サントリーサンゴリアスと行く！
ラグビー W杯観戦ツアー』



サントリーサンバーズによる
バレー教室

「サントリードリームマッチ」ライブビューイング



ウィーン・フィルによる復興祈念公演開催

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と協同で基金を設立し、楽団員による公演のほか、現地団体への助成金の交付や技術支援を実施

参加者数

約**1,300**名



佐渡裕氏率いるスーパーキッズ・オーケストラによる復興祈念公演開催

2015年より世界的指揮者・佐渡裕氏が指揮・芸術監督を務める「スーパーキッズ・オーケストラ」の復興祈念演奏活動を支援

参加者数

約**3,000**名



熊本県立劇場&九州交響楽団&サントリー みんなのまちのコンサート開催

2018年より熊本県立劇場・九州交響楽団と協同で九州熊本工場周辺の小学校や公民館等の施設をめぐり、コンサートを実施

参加者数

約**3,000**名



コミュニティ支援

九州熊本工場周辺の嘉島町・益城町・御船町を中心に、サントリーの資産を活用した支援活動を展開

サントリーフラワーズと連携し、花苗・花鉢のお届けやワークショップを開催



九州熊本工場周辺3町の被災者の皆さまを工場ツアーに招待

九州熊本工場周辺の嘉島町・益城町・御船町の仮設住宅にお住まいの方々を工場見学にご招待

参加者数

約**850**名



水の国くまもと未来予想図プログラム

「熊本地震から5年、その先へ。」

2021年、サントリーは地元企業として、熊本の未来について次世代とともに“考動”し、これからも地域に寄り添った取り組みを継続していきます。



社会と響きあう 文化・社会貢献

地域貢献

工場周辺地域との共生

サントリーグループの主要工場では、地域住民の皆様との対話や、工場内に造成した公園・遊歩道を開放するなど、地域交流の場を提供しています。新たに工場を建設する際には、第三者による環境影響評価を行い、周辺住民の皆様にご理解いただくとともに、生物多機性の保全や工場内の緑化など自然との共生に努めています。

■工場緑化の推進

サントリーグループの工場では、生物多機性にも配慮し、地域の環境と調和した緑化を進めており、緑化優良工場として各地で表彰を受けています。

緑化優良工場等表彰（主催：日本緑化センター）

表彰年	表彰工場	表彰名
1987	利根川ビール工場	東京通商産業局長賞
1989	白州蒸溜所	内閣総理大臣賞
1993	梓の森工場	通商産業大臣賞
2002	山崎蒸溜所	経済産業大臣賞
2006	九州熊本工場	日本緑化センター会長賞
2008	高砂工場	日本緑化センター会長賞
2014	利根川ビール工場	経済産業大臣賞
2014	九州熊本工場	経済産業大臣賞
2014	榛名工場	日本緑化センター会長賞
2019	九州熊本工場	内閣総理大臣表彰

その他の緑化関連表彰

表彰年	表彰工場	表彰名	主催
1986	九州熊本工場	緑化優良工場九州経済産業局長表彰	九州経済産業局
1997	利根川ビール工場	全国植樹祭開催記念 環境緑化コンクール特別大賞	群馬県
2005	九州熊本工場	くまもと景観賞・地域景観賞	熊本県
2011	天然水奥大山ブナの森工場	日本緑化学会賞（技術賞）	日本緑化学会

■工場見学を通じてお客様と対話

美味しさや安全へのこだわり、自然環境への配慮など、商品を通じた取り組みを多くの方に知っていただくため、ビール工場・ウイスキー蒸溜所・ワイナリー・天然水工場などで、工場見学を実施しています。製造工程を見学しながら、ものづくりのこだわりについてわかりやすく説明するほか、試飲などをお楽しみいただけます。また、ビールづくりのこだわりや、ウイスキーの楽しみ方などを学べる特別セミナーも開催しており、年間約66万人のお客様にご来場いただいています。



天然水工場での工場見学



ビール工場での特別セミナー開催

社会と響きあう 文化・社会貢献

チャレンジド・スポーツ支援

サントリー チャレンジド・スポーツ プロジェクト

サントリーグループは、東日本大震災復興支援の一環として、2014年に「チャレンジド・スポーツ支援」を開始。2015年からは、復興支援の枠を超えて、アスリートたちに寄り添いながら普及から強化まで幅広く取り組んでいます。

■「PASSION FOR CHALLENGE — ともに夢に挑もう — 」

障がいをものともせず、自らの限界に果敢に挑戦していくチャレンジド・アスリートたち。当社も創業以来、挑戦精神「やってみなはれ」のもと、さまざまな新分野を切り拓いてきました。そんなサントリーだからこそ、選手の熱意・挑戦に共感し、選手に寄り添って、その挑戦、無限大の可能性を応援していきたい、という思いから活動を展開しています。

1. オフィシャルパートナー

- ①公益財団法人 日本パラスポーツ協会（2015年～）
- ②一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟（2015年～）
- ③車いすバスケットチーム「宮城MAX」「TEAM EARTH（福島）」
「ラッセル岩手」「SCRATCH」（2015年～）」
- ④一般社団法人 日本知的障がい者卓球連盟（2020年～）



2. 体験教室

チャレンジド・スポーツの認知向上・普及のために、東北の小中学校や公共施設等で「宮城MAX」などを講師に迎え、車いすバスケットボール体験教室をこれまでに47回開催。

その他、ブラインドサッカー・ブラインドマラソン・チェアスキー体験・ポッチャなど幅広い競技の体験も実施しています。

参加者数：累計約5,500名
(2020年1月時点)



3. サントリーチャレンジド・アスリート奨励金

チャレンジド・スポーツの振興や世界レベルの選手の育成・強化を目指し、岩手・宮城・福島県を対象に実施しています。

助成先：個人部門のべ294名・団体部門のべ129団体に総額約2億6百万円を支援。
(2020年1月時点)



4. 車いすスポーツ導入教室開催（対象：車いすスポーツ未経験者や支える方）

車いすスポーツの裾野拡大を目指し、ドイツ障がい者スポーツ連盟公認リハビリテーションスポーツ指導員資格を取得した橋本大佑氏を講師に迎え、岩手・宮城・福島県でこれまでに13回開催しています。

5. 競技用具寄贈・競技施設改修

チャレンジド・スポーツの環境整備のため、岩手・宮城・福島県を対象に、競技用車いすなど競技用具の寄贈や宮城MAXの練習拠点の体育館を含む施設改修を実施しました。

施設改修 3箇所、競技用車いす 35台、STT用卓球台 5台



6. 大会協賛

車いすバスケの普及および競技環境整備のため、下記の大会に協賛、運営をサポート。より親しみを持っていただく取り組みなども実施しています。(2019年度実績)

①天皇杯 日本車いすバスケットボール選手権大会

スペシャルパートナーとして大会協賛、さまざまな施策を展開

◆車いすバスケットボール体験ブース出展、サンプリング

車いすバスケの試合中の目線が疑似体験できるVR動画の体験コーナーを実施

◆サントリー車いすバスケシュートコーナー開催

実際に車いすに乗ってシュート体験を行うコーナーを設置

◆副賞贈呈

MVP・得点王・特別賞「サントリーやってみなはれスピリッツ賞」の選手にサントリー商品1年分

②国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会

③国際車いすバスケットボール大会「World Challenge Cup」

④国際車いすバスケットボール大会「北九州チャンピオンズカップ」

7. 従業員参加・啓発

①関東地方勤務のサントリーグループ社員対象(約3,600名)のソフトバレーボール大会にて、日本代表選手などによる車いすバスケットボール体験教室およびデモンストレーションを実施。弊社ラグビー部・バレーボール部も参加し、障がいの垣根を越えてスポーツの交流を行っています。(2015年～実施中)



②大会観戦(観戦・応援参加者数 2018年 約510名)

ジャパンパラ陸上大会(2015)、国際車いすバスケットボール大会「北九州チャンピオンズカップ」(2015)、2015IWBFアジアオセアニアチャンピオンシップ千葉(2015)、国際親善女子車いすバスケットボール大阪大会(2016、2017、2020)、車いすバスケットボール日本選手権大会(2016、2017、2018、2019)、国際車いすバスケットボール大会「World Challenge Cup」(2017、2018、2019)に社員観戦を案内



③大会ボランティア

車いすバスケットボール日本選手権大会(2016)、ジャパンパラウィルチェアラグビー大会(2016)や体験教室などに計15名が参加しました。



8. 車いすバスケットボール ルール映像制作

車いすバスケットボールの認知向上のため、分かりやすく親しみやすいアニメーションによるルール映像を制作し、日本選手権などの各大会でも上映しました。



9. 車いすバスケットボールの試合中の視点が体験できるVR動画制作

車いすバスケットボールを身近に、そして迫力・魅力をより感じてもらうため、選手視点で試合中の視線が擬似的に体験できるVR動画を日本代表選手(2016)にも出演いただき、制作しました。



10. サントリー HP内で連載企画「OUR PASSION」掲載

選手や競技の認知度向上・普及のため、「サントリー チャレンジド・スポーツ プロジェクト」に関わっていただいているアスリートやスタッフの方々取材し、挑戦に懸ける想い(OUR PASSION)を掲載しています。



11. チャレンジド・アスリート 谷 真海 (旧姓: 佐藤 真海) の活動支援

走り幅跳びでパラリンピック3大会に連続出場。2016年からはパラトライアスロンに転向、招致スピーチを行った2020東京大会への出場を果たし、開会式では日本選手団旗手を務めた。また、復興支援を含む様々なCSR活動にも取り組んでいます。



12. 「パラスポデザインカレッジ」創設

インターネットスポーツメディア「SPORTS BULL」などを運営する(株)運動通信社との共催で、次世代を担う大学生たちが、パラスポーツを切り口に共生社会について自ら考えアクションを起こし発信していく、1年間にわたるプロジェクトです。車いすバスケットボールを中心に、大学生自身が試合のLIVE配信やアスリートインタビューなどを行い、さまざまなコンテンツを継続的に発信していく予定です。大学生が自ら考え、発信することで、大学生の皆様の学びにつなげ、パラスポーツの振興を推進していきたいと考えています。



社会と響きあう 文化・社会貢献

社員ボランティア

社員のボランティア活動

■基本的な考え方

サントリーグループでは、「利益三分主義」という大切にしている価値観に基づき、さまざまな社会貢献活動を行っています。同時に社員一人ひとりもGood Personとして社会と豊かな接点を持つことが大切だと考えています。

全社で推進している「働き方改革」で創出した時間を、新たな価値に触れ、自身の成長につなげる機会とすべく、社員のボランティア参加を積極的に推奨しています。

■ボランティア機会の提供

社内イントラサイト「サントリーボランティアーズ」では、「自分の能力を仕事以外でも活かせるって、豊かだ。」をキャッチフレーズに、ボランティア情報に加えて「ボランティア活動日記」「体験レポート」「ボランティア座談会」など、ボランティアの実際を知ることができる情報を掲載しています。

また「サントリーボランティアーズ」を「ボランティアウェブ」（公益社団法人日本フィランソロピー協会提供）と連携させ、活動紹介・申し込みシステムとして活用しています。

国際貢献ボランティア「みんなで布チョッキン」「絵本を届ける運動」のプログラムをNPOと協働でパッケージとして整え、「サントリーボランティアーズ」上に掲載、社員自らが希望の場所で開催できる形を実現しました。また支援制度として、「ボランティア休暇制度」を設けています。



サントリーボランティアーズのイメージ



ボランティアウェブのイメージ

■ ボランティア活動紹介

在宅ボランティア

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、在宅でも取り組めるボランティアメニューを提供しました。メニューは「切手・はがきを集めて送るボランティア」「映像翻訳」「Excelフォーマット作成」「炊き出し利用者へのお手紙書き」など。



炊き出し利用者へのお手紙書き
ボランティア



切手・はがきを集めて送る
ボランティア

食品寄贈ボランティア

年末にはひとり親世帯への食品支援とお手紙書きのボランティアを実施しました。



サントリー天然水の森 森林整備ボランティア

サントリーが「自然との共生」に真剣に取り組んでいることを理解・体感することを目的として実施しました。低木の常緑樹を刈り取ることで、土壌への陽射しを呼び込み、落葉広葉樹をはじめとする多様な草木の生育を促す作業を行いました。



「天然水の森ひょうご西脇門柳山」のボランティア

災害支援ボランティア

2018年西日本豪雨、2019年台風19号発生後、会社として実施した義捐金拠出や商品供給だけでなく、社員一人ひとりが被害を受けた方々の助けとなることを目的として、ボランティアを派遣しました。2年間で200名を超える社員が、岡山県、栃木県、長野県などで、被害にあわれた住宅の床下の泥かき、家具の撤去、リンゴ畑の清掃活動などを行いました。

(2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大防止により活動を休止しています)



2018年、2019年、各地の災害ボランティア

「くまもとフラワープロジェクト」ボランティア

熊本復興支援「サントリー水の国くまもと応援プロジェクト」活動の一環として、サントリーフラワーズと協働実施。熊本地震で特に被害の大きかったサントリー九州熊本工場にほど近い、3町益城町・嘉島町・御船町の仮設住宅へ花苗をお届けし、仮設住宅にお住まいの方と一緒に「サフィニア」を植えました。



熊本の仮設住宅でのお花植えボランティア

邦寿会 高齢者福祉施設での窓拭き・保育園の運動会のお手伝い

社会福祉法人「邦寿会」が運営する高齢者福祉施設や保育園では、毎年サントリーグループの社員が園芸、窓拭き、運動会の運営サポート等の作業を施設職員とともに実施しています。また、グループの新入社員も各施設で邦寿会の歴史・創業者の社会貢献への想いを研修した上で、道路の清掃や草抜きなどのボランティア活動に参加しています。



窓拭きボランティア



お花植え・草抜きボランティア



つぼみ保育園運動会のボランティア

サントリー地域文化賞受賞団体のイベント等の運営ボランティア

サントリー地域文化賞で受賞された各団体のイベント等における運営のボランティアに参加、地元の方との交流や地域文化の理解を深めています。(2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大防止により活動を休止しています)



「ガタリンピック」競技ボランティア



「因島水軍まつり」運営ボランティア

全国の事業所で美化活動を実施

全国にあるサントリーグループの各事業所では、周辺の清掃をはじめ、自治体が主催するごみ拾いへの参加など、環境美化に取り組んでいます。(2020年以降、新型コロナウイルス感染拡大防止により活動を休止しています)



武蔵野ビール工場の社員・家族による
多摩川の清掃ボランティア



宇治川工場の社員による
工場周辺の清掃ボランティア

■グループ会社主催のボランティア活動紹介

「P LOVE GREEN」ー(株)プロントコーポレーション

2010年4月に「お客様の精神(こころ)と肉体(からだ)に安らぎと喜びを与え、明日への創造を生み出すJUNCTIONとなる」という基本理念と、プロントのブランドカラーである「Green」という原点を見つめ直し「P LOVE GREEN宣言」を発表し、人と自然にやさしい、また、ワクワクするプロントらしい活動を「P LOVE GREEN」と名づけ、メニューやグッズ、店内環境、エンターテインメントの提供や社会貢献活動にまで広がっています。

その1つの活動として、2010年度の東京都「緑の東京募金」への寄付に始まり、東日本大震災以降は被災地の緑化事業にも寄付し、2012年および2015年には、農林水産大臣感謝状をいただきました。加えて、毎年のように各地で災害が発生している昨今、3.11東日本大震災以降、各災害被災地の緑の復興の為、植樹活動を中心に現地の子どもたちとともに実施しています。



植樹の様子

霧多布湿原ナショナルトラストを支援 — ハーゲンダッツ・ジャパン(株)

主原料の牛乳の生産地である北海道根釧地区において、2007年から厚岸郡浜中町の霧多布湿原ナショナルトラストへの支援を行っています。霧多布湿原は国内では3番目に大きな湿原で、1993年にはラムサール条約にも登録されています。資金面の支援に加え、定期的にハーゲンダッツ・ジャパンの社員が地元の方々とともに、木道の補修をするなど湿原の景観保全のボランティア活動を行っています。このボランティア活動は2018年で12回目となり、引き続き毎年実施していく予定です。



木道補修風景 (2014年)

フードバンクにアイスクリームを寄贈 — ハーゲンダッツ ジャパン(株)

2018年に引き続き2019年も、サントリーとハーゲンダッツの社員が協働で、母子施設や児童養護施設などにアイスクリームを配送するフードバンクのボランティアを行い、施設を訪問しハーゲンダッツのアイスクリームをお届けしました。



サントリーサンゴリアス選手も参加

※フードバンク活動：製造・流通過程などで出る、安全上は問題がないにも関わらず、廃棄される食品の寄付を受け、社会福祉施設などに無償で提供する活動

花を通して地域の活性化を支援 — サントリーフラワーズ(株)

「地域に花のある暮らし」を多くの方に体験していただくため、公園などに花苗を提供しています。2012年からは「赤い花で日本を元気に！」をスローガンに、全国各地の公園や公共施設などに花を植え、コミュニティの活性化にも役立てていただく活動「赤い花プロジェクト」を全国で展開。「サフィニア・レッド」の花苗を全国各地の団体へ寄贈しました。2015年からは活動の輪をさらに広げて「大きな花プロジェクト」として取り組んでいます。さらに2019年からは「あしたの花にできることプロジェクト」として、東北や熊本の復興支援などを中心に、花の力で一人でも多くの人達が笑顔になるよう、活動を続けていきます。



「赤い花プロジェクト」の植栽

■海外グループ会社のボランティア活動

ビームサントリー社では、2019年4月に「Together for Good」というタイトルで、14か国55地域2,000名の社員が期間内にクリーンアップや災害支援などに参加しました。

サントリー食品アジア社ベトナムでは、サントリーの次世代環境教育「水育」の浸透にあわせたボランティア活動を実施。サントリー食品ヨーロッパ社では、フードバンクやビーチクリーンボランティアなどに参加しました。

また、世界各地でボランティア活動推進を担当しているメンバーが一堂に会する「Global Volunteer Meeting」を実施し、今後のボランティア活動について検討を行いました。



ビームサントリー社のビーチクリーン



サントリー食品ヨーロッパ社の河川清掃



Global Volunteer Meetingの様子